

孔子
紀念祭典
至聖先師孔子祀奠の解説

董金裕



統一編號

031029830040

發行者：陳哲男
出版者：台北市孔廟管理委員會
住 所：台北市大龍街275号
著 者：董金裕
翻 訳：久保恵子
デザイン：李男工作室
印 刷：中華彩色印刷股份有限公司
一九九五年六月再版



孔子
記念祭典
至聖先師孔子釈奠の解説



巨扇 太陽の光を遮る。扇妻・障扇とも言う。

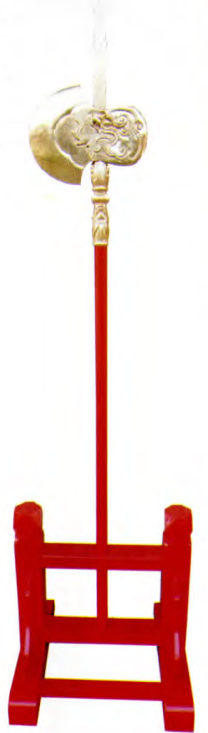
斧

兵器の一種、柄と弧形の刃がある。



鉞

えつ、兵器の一種、斧に似るが大きい。



麾

き、旗の一種、絹で作られ演奏や合唱の指揮用。



節

指示旗の一種、さなだ紐で作られ動作の指揮用。



建鼓

太鼓の一種、鼓身に四角い穴があり柱を立てる。柱底部は十字型、四頭の獅子が彫られ転班鼓ともいう。



鼗

とう、小さい太鼓の一種、柄を持ち振ると両脇の振子で音が出る。浪鼓とも言う。



繖

さつ、雨や太陽を避ける器具、傘。





應鼓

太鼓の一種、底部が十字形で柱で立てる。

晋鼓

太鼓の一種、大型で木枠の上に置かれる。孔子廟の晋鼓は大鼓とも呼ばれる。



搏拊

はくふ、皮で出来た楽器の一種、太鼓形で中に米糠を入れリズムを取る。



目次

- 一 孔子記念祭典の名称 ——— 6
 - 二 祭典の由来と変遷 ——— 7
 - 三 現行の孔子記念祭典の制定 ——— 9
 - 四 現在の孔子記念祭典の式次第とその意味 ——— 12
- 付録 ———

礼楽器物図

孔子記念祭典の名称

大成至聖先師孔子を祭る典礼は、「**積奠礼**」と呼ばれています。積・尊共に設ける、捧げるなどの意味があり、祭典において音楽や舞踏の席を設け、犠牲獣や酒などを捧げて、孔子への尊敬と崇拜の意を表わします。

『礼記』の「文王世子」の記載によると、早くも周朝の時代に学校では毎年四季に応じて先師への**積奠**を行ない、師を尊び道を重んずる意を表現したと言います。しかし、この当時に言います先師には、特定の誰か或いは何人かを指す意味はなく、過去に教育に対して貢献があり、現在すでに世を去った先生であれば、現在の教師と学生とがお祭りする対象となりました。

その後、孔子は生前に教育をたいへん重んじ、教育事業の上で大きな成果を上げ、深く広い影響を後世に及ぼしたので、**積奠**の対象は次第に孔子が主となっていきました。隋朝になり、孔子が「先師」と尊称されるようになり、**積奠**も孔子をお祭りする典礼のみを指す名称と変わりました。

①隋文帝開皇年間（紀元五八一〜六〇〇年）に、孔子を尊んで先師尼父

と呼んだ。明世宗嘉靖九年（紀元一五三〇年）に至聖先師と名称を変え、清世祖順治二年（紀元一六四五年）には大成至聖文宣先師と諡号したが、順治一四年には至聖先師と改めた。

祭典の由来と変遷

孔子は周靈王二十二年（魯襄公二十二年、紀元前五五一年）に生まれ、周敬王四〇年（魯哀公一六年、紀元前四七九年）に没し、享年七十三歳でした。

孔子の死後二年目（紀元前四七八年）に、魯の哀公は曲阜闕里の孔子の旧宅に廟を立てることを命じ、孔子が生前に使用した衣・冠・車・琴・書籍などを保存し、季節毎に祭祀を執り行うことになりました。これが諸侯の孔子祭典の始まりです。

漢高祖一二年（紀元前一九五五年）に、漢高祖が魯国を通ったときには太牢①をもって孔子を祭りました。これが帝王の孔子祭典の始まりです。

漢元帝（紀元前四八〜三三年）の時、孔子の第一三代子孫孔霸

を帝の師に招き、関内侯に取り立て褒成君の称号を与えて、食邑八百戸を賜い、この税収をもつて季節毎に孔子を祭ることになりました。これが孔子の子孫を侯に封じ、孔子を祭る始まりとなったのです。

漢光武帝の建武五年（紀元二九年）には、大司空宋宏を曲阜闕里に遣わして孔子を祭りました。帝王が特使を派遣して孔子を祭るのは、これが始まります。

これ以前には、あらゆる孔子の祭典はすべて曲阜の孔子廟で行なわれていましたが、漢明帝の永平二年（紀元五九年）になると、太学及び地方の郡県学などの学校で周公及び孔子を祭るようになりました。これ以降、中央政府の所在地や各地方政府では、学校において孔子を祭るようになり、孔子の祭典は全国的な重要な行事となったのです。

漢明帝永平一五年（紀元七二年）に明帝は曲阜に赴いて、孔子とその七十二弟子を祭りました。これが、孔子祭典の配享（共に祭る聖人）の開始②です。

①牛・羊・豚の三つの犠牲をすべて備えたもの太牢、一つ欠けていると少牢という。

②配享は時代の下るにつれ増加している。民国初年には四配が数えられた。復聖の顔回・述聖の子思（東配と云う）、宗聖の曾参・亜聖の孟子（西配と云う）、それに十二哲として閔子騫・冉仲弓・子貢・子路・子夏・有若（東哲と云う）、冉伯牛・宰我・冉求・子游・子張・朱熹（西哲と云う）があった。以上の四配・十二哲は、大成殿内に祭られる。これに加えて、明道修徳で知られる先賢七九人（東廡に四〇人、西廡に三九人を祭る）、伝経授業で知られる先儒七七人（東廡に三九人、西廡に三八人を祭る）があり、先賢・先儒を合計して一五六人であった。（台湾各地の孔子廟に祭る人数は一致していないが、ここでは曲阜の孔子廟の人数によった）

三 現行の孔子記念祭典の制定

漢朝の時代から、曲阜であろうと中央政府及び地方政府の所在地であろうと、孔子記念祭典は各地に広まり、それぞれ儀式の次第が定められるようになりました。孔子の称号も、漢平帝元始元年（紀元元年）の褒成宣尼公から、次第に格が上がって唐玄宗開

元二七年（紀元七三九年）には文宣王①となり、儀式も完備し莊重になってきました。

また、後には孔子を祭る時に、孔子の弟子及びその他の儒者を配享と言ってお供とし、これらの配享者も一緒に祭るようになりました。孔子を祭る儀式は正献礼と呼ばれ、配享者を祭る儀式は分献礼と言います。

中華民国の成立後、時局は動乱の最中であって、孔子記念祭典も必ず行われたわけではなく、地方によってもまちまちになり、前代のように参考となるべき式次第が制定されていたわけではありませんでした。民国五七年（紀元一九六八年）になって、教育部は先總統蔣介石先生の支持により、内政部などの関連機関を召集し、学者や専門家を招いて「孔子祭典の礼楽制定委員会」を組織しました。これは蔣復璁氏が主任委員となり、礼儀・服装・音楽舞蹈・祭器の四研究班に分かれて、方豪・王宇清・莊本立・孔徳成の四氏が各班の招集人として、それぞれ研究と企画立案の作業にあたりました。大成至聖先師孔子積尊の記念祭典の式次第が基本的にまとまったところで、同年台北市孔子廟において実施されました。その後、二年間の検討期を置き、民国五九年（紀元一九七〇年）には成案として内政部から公布され正式に実施される

ようになりました。

しかし、儀式の時間が長くかかりすぎ、約八五分から九〇分必要ということで、台北市孔子廟管理委員会から内政部に申請を出し、その同意を受けて民国六四年（一九七五年）から修正を加え、さらに翌年と二回試してみた結果六〇分以内で終了し、各方面の評判もいいので今まで続けられています。

①周朝では「王」は天子の称号であったので、孔子を祭る時に使用される儀式も天子と同じとされる。例えば、舞踏には八佾の舞いが舞われるのだが、場所の広さの関係により（台北市など）やむをえず六佾の舞いが行なわれることもある。

②この修正では、儀式全体の時間が短縮されただけではなく、椅子席を撤去し、観礼証を参礼証に改めた。同時に陪祭官などの職務にも女性を任命し、孔子に対する尊敬の念を表わすとともに、時代の潮流に合わせて男女平等の精神を表現している。

四

現在の孔子記念祭典の式次第とその意味

一、孔子記念祭典の開始

二、鼓初敲（開始の太鼓）

楽生が儀門①の西に横向きに置かれた晋鼓②を叩きます。最初に杵を軽く、次いで中心を強く数回叩いてから、次第に速く強目に盛り上げ、またゆっくり弱い調子に戻り、最後に強く一回叩きます。これを受けてもう一人の楽生が儀門の東に置かれた鑪鐘③を強く一突きし、長い余韻を残して終ります。太鼓と鐘とが鳴り響き、参列者に孔子への尊敬の念を呼び起こします。

三、鼓再敲（二の太鼓）

叩き方は最初と同じですが、最初の太鼓の杵、最後の太鼓と鑪鐘とは、一回多くして二回叩きます。

四、鼓三敲（三の太鼓）

このとき楽生と佾生（踊り手）及び祭典執行の礼生が順序よく登場して、大成殿の正面階段の両脇に並びます。

叩き方は最初と同じですが、最初の太鼓の杵、最後の太鼓と鑪鐘とは、二回多くして三回叩きます。

この時、礼生のうち引賛④が祭典の主宰者正献官と分献官とを大成殿の両側に導き、正面階段の両脇に並ばせます。

鼓初敲、鼓再敲、鼓三敲と、三回打ち鳴らされますが、三は多数を代表して莊嚴さを表わします。これから正献礼・分献礼とが、初・亜・終の三回に分けて行なわれますが、これも同じ意味です。

①孔子廟内第二の大門で、儀は象すべしの意から儀門と呼ばれる。また、側に戟（武器の一種）が並べられているので戟門とも言う。

②大型の太鼓で木杵に置かれる。孔子廟内の晋鼓は大成鼓とも言う。

③鑪（よう）、大型の鐘。鑪鐘は、特に大型の鐘の一種。

④礼生のうち、祭典の案内役を務め、式の進行を助ける。

五、各役職の入場

音楽担当の楽生は、麾⑤を取るものが先に立って、東西の階段を上り位置に付きます。
舞踏担当の佾生は、節⑥を取るものが先頭で両側から中庭に二列に入り、東西の階段を上ります。
礼生は、役割にしたがって位置に付きます。
楽生・佾生・礼生が位置に付くときは、建鼓⑦のリズムに合わせて「五歩毎に一停止」の歩き方で入ります。

六、糾儀官の入場

糾儀官は引賛に導かれて、丹墀⑧の前、東側に西南に面して立ちます。
糾儀官は、通常は現地の地方政府の民政担当の首長が担当し、祭典の式進行の誤りを糾す役目です。

七、陪祭官の入場

陪祭官は引賛に導かれて、大成殿南端の儀門の前に立ち、大成殿に向って立ちます。
陪祭官は、現地の政界・教育界の名士が担当します。

八、分献官の入場

東西哲・東西配・東西廡先賢・東西廡先聖の分献官八人が引賛に導かれ入場し、大成殿両脇の手洗いで手を清め、陪祭官の前に大成殿に向って立ちます。
分献官は、現地の政界・教育界或いは議員が担当します。

九、正献官の入場

正献官が引賛に導かれ入場し、大成殿両脇の手洗いで手を清め、分献官の前に大成殿に向って立ちます。
正献官は、現地政府の首長が担当します。

⑤ 麾（き）で旗の一種、絹で作り演奏や合唱の指揮に用いる。

⑥ 指図旗の一種で、さなだ紐で作られ、層に分かれて下がり、動作の指揮に用いられる。

⑦ 太鼓の一種、鼓身に四角い穴があり、柱が通り立てられる。柱の底部は十字形で、四頭の獅子が彫られている。転班鼓とも言う。

⑧ 墀（ち）、きざはしの上と大門の間の場所で、通常朱塗りであるため丹墀と言われる。